2月26日　5年生社会科「自然災害を防ぐ」

――ルーブリックと相互評価を生かした主体的な学び ――

1．単元の概要

本単元では「自然災害の原因と対策」を学習し、最終的に

- 自然災害の5つの原因と対策を整理する（A評価）
- 対策を根拠をもって説明し、自分が住みたい場所とその理由を自分の言葉で説明する（S評価）

ことを目標としました。

授業冒頭でルーブリックを提示・確認し、ゴールを明確にした上で学習を進めました。

また、表現の場面では相互評価を取り入れました。

自然災害を防ぐ　学習ルーブリック

評価基準	3 S（すばらしい）	2 A（できている）	1 B（もうすこし）
［知識・技能］ キーワードの活用	自然災害を防ぐための「プレート」「緊急地震速報」「耐久工事」「津波避難タワー」「防潮堤」「放水路」「ハザードマップ」「公共事業」「火山現象」「減災」すべてのキーワードを理解している。 テストの表面90点以上	自然災害を防ぐための「プレート」「緊急地震速報」「耐久工事」「津波避難タワー」「防潮堤」「放水路」「ハザードマップ」「公共事業」「火山現象」「減災」のキーワードを理解している。 テストの表面70点以上	自然災害を防ぐためのの「プレート」「緊急地震速報」「耐久工事」「津波避難タワー」「防潮堤」「放水路」「ハザードマップ」「公共事業」「火山現象」「減災」のキーワードを理解していない。 テストの表面70点未満
［思考・判断・表現］ 情報の生かし方についての表現	⌞地震災害 ⌞津波災害 ⌞風水害 ⌞火山災害 ⌞雪外 5つすべての災害の ①災害がどのような地形や気候からおこるものか。 ②対策 についてまとめて伝えているか。 ＋ 将来、自分がどの都道府県に住みたいか。そこでどんな対策ができるか。について自分の言葉でまとめ、伝えることができているか。 S	⌞地震災害 ⌞津波災害 ⌞風水害 ⌞火山災害 ⌞雪外 5つすべての災害の ①災害がどのような地形や気候からおこるものか。 ②対策 についてまとめて伝えているか。 A	⌞地震災害 ⌞津波災害 ⌞風水害 ⌞火山災害 ⌞雪外 5つすべての災害の ①災害がどのような地形や気候からおこるものか。 ②その災害からどのように暮らしを守っていくか。 についてまとめて伝えることができていない。 B
［学びに向かう力］ 粘り強さ、調整力、協力	・授業に積極的に参加し、友だちの意見をよく聞き、自分の考えを深めている。 ・見通しをもって、学習計画を立て、解決している。 ・みんなが気持ちよく学習できるように気を配り、協力して課題に取り組んでいる。 ・振り返りを次の学習に生かしてい　る。（良いところ、課題など）	・授業に真面目に参加し、友だちの意見を聞きながら、自分の考えをまとめている。 ・決められた学習の課題に取り組んでいる。 ・振り返りを書くことができている。	・授業への参加が消極的だったり、友だちの意見を聞こうとしていなかったりしている。 ・学習中、うまく協力できていないところがある。 ・振り返りを書くことができていない。

5年生は、授業でルーブリックを日常使いにすることで、児童も自然と学習のキーワード、目標を意識して取り組めるようになってきました。（このルーブリック、かんたんに作れます!!）

実践のよかった点を4つ紹介します

① 説明・表現の質がレベルアップしていたこと

2学期までは、

「書いた文章をそのまま読む」という発表スタイルの児童が多く見られました。

しかし今回は、

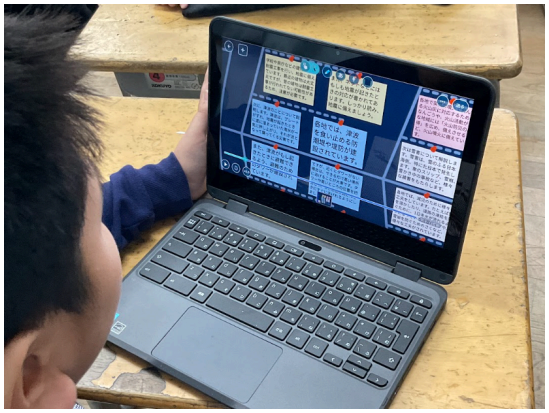
- 思考ツールに整理
- 要点を可視化
- それを見ながら自分の言葉で説明

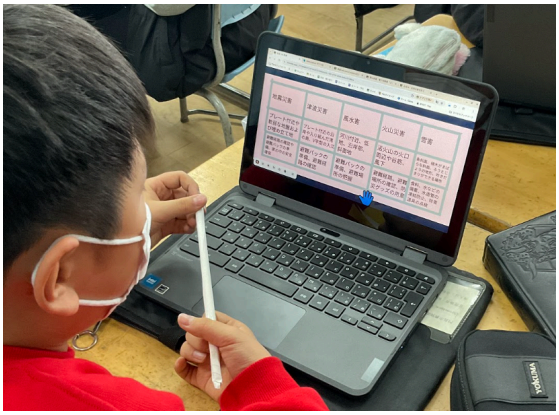
という形に変化していました。

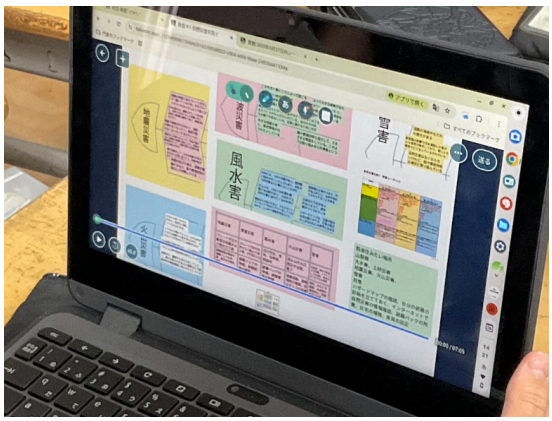
今から工業生産を支える貿易と運輸について話します。
まず貿易とは国と国で売買することです。運輸は自動車や船で人や物を運ぶことです。工業製品の運ばれ方の1つ目はコンテナ船です。メリットは安い費用で一度にたくさん運べます。デメリットは速度が遅いので時間がかかることです。2つ目はトラックターミナルです。メリットは道路や道があればどんなところも進めることですデメリットは一度に多くの量を運べないことです3つ目は貨物空港機です。早く運べるが費用が高いことです。4つ目は貨物列車です。メリットは時間通りに重いものを運べますが線路の上しか走れないことです。このように運ぶものによって郵便方法を使い分けています。次は日本が輸入しているものです。工業製品は機械など動かすため材料や肥料が必要です。以前は資源を多く輸入してそれを使って多くの工業生産をしていました。現在ではそれに加えて海外で生産された工業製品も輸入しています次は日本が輸出している国です。日本の輸出品の多くは機械製品です。鉄鉱石はブラジルやオーストラリアからの輸出が中心です。今は自動車の輸出はアメリカやオーストラリアが多くなっています。
これで発表を終わります。

これは、2学期に授業者がモデル提示していた説明方法が、児童の中に確実に蓄積されていたことを示しています。

「教えたことが、できるようになっている」







もちろん、全員がこのように説明しているわけでなく、文章をそのまま読んで伝えている児童もいて、学びはグラデーションなのですが、この成長は、指導の積み重ねの成果であり、大きな価値があると考えています。

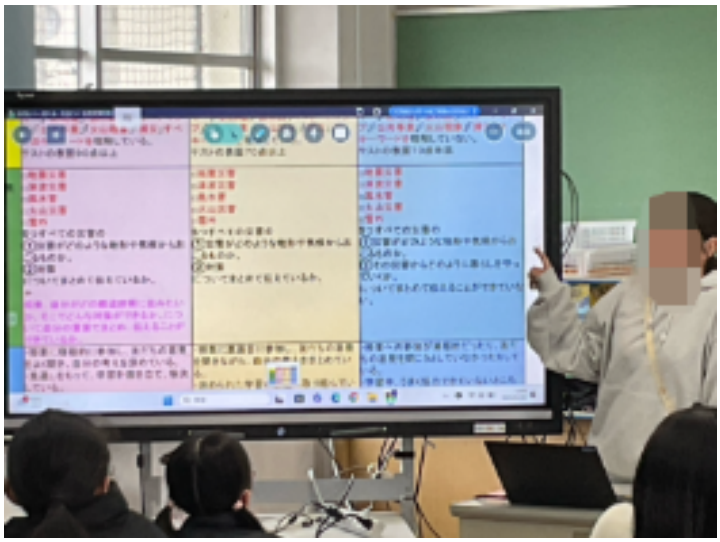
▸ 情報活用能力

・情報を整理する力　　・要点を構造化する力　　・目的に応じて表現する力

が確実に育っています。

② ルーブリックと相互評価の活用

今回の授業では、



- ルーブリックを事前に確認
- 発表後、相互評価を実施
- ロイロノートで感想・助言を送付

という仕組みが組まれていました。

特に印象的だったのは、

「〇〇さんのをA（評価）にした理由は、～～だから、〇〇したらいいよ！」

「S（評価）にするには、～～するといいと思います」

まで考え、基準に基づいて柔らかく伝えていたことです。

これは単なる感想やアドバイスにとどまらず、相互評価を入れることで、

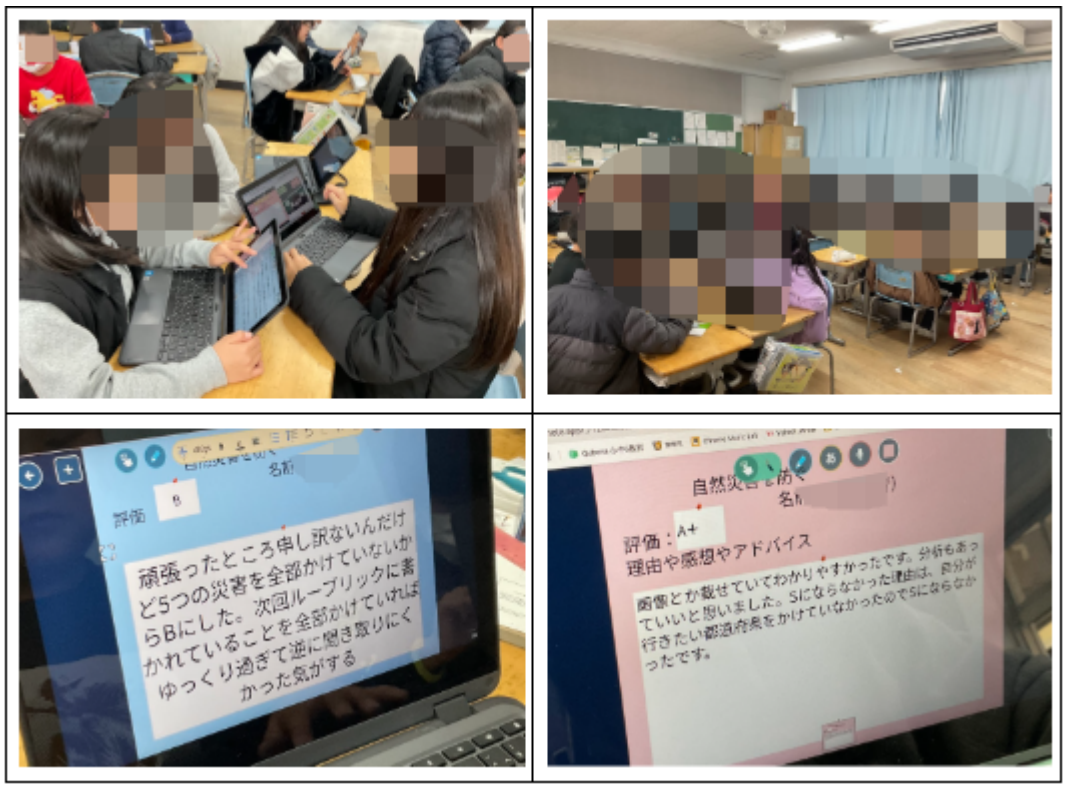
▸ 評価基準を理解する力

▸ 他者の表現を分析する力

▸ 根拠をもって助言する力

を育てる実践でした。

また、ロイロノートを自然に使いこなしており、ツールは“使うこと”が目的ではなく、“学びを深める手段”として活用されていました。



③ 授業スタイルのバージョンアップ

この１年間で授業構造そのものが進化していました。

- （時間の最適化・全員の発表機会確保） ４人グループ → ３人グループへ
- （学習者主体への転換） 教師の評価中心 → 相互評価の導入

単なる活動変更ではなく、「より効果的に学びが深まる形」へと改善されていました。

トライ＆エラーを重ねながら、授業がアップデートされていることがよく分かる実践でした。

それらは固定された“正解”ではなく、児童の実態を見取りながら授業者が試行錯誤し続けた結果です。

うまくいかない場面もあったはずです。

迷いながら調整した場面もあったはずです。

だからこそ今回の授業には、「完成形を示した」というよりも、「子どもとともに創り上げてきた」という表現がふさわしいと感じました。

授業は正解を伝えて終わりではなく、子どもの姿に合わせて進化していくもの。

その姿勢そのものが、主体的な学びを支える土台になっていると感じました。

この日、授業者の先生と振り返りをしました。

その際、この授業の価値や学びとともに、授業が子ども主体で進むようになった後の教師の役割について意見交流をしました。

①学びが気になる指導の支援　②活動の活性化・価値づけ　③活動の共有と軌道修正

が出されました。

特に、一番大切にしたいのが①の気になる児童の支援が私たちの共通認識でした。

そうして、3月3日本日の授業でした。

④ 主体的な学びを支える教師の役割

前回の振り返りで、「子どもが主体的に学ぶ中で、教師の役割は何か」という問いを共有しました。

その中で確認されたことの一つが、

学びがしんどい児童、学びに向かいにくい児童に寄り添うことでした。

主体的な学びとは、すべてを児童に委ねることではありません。

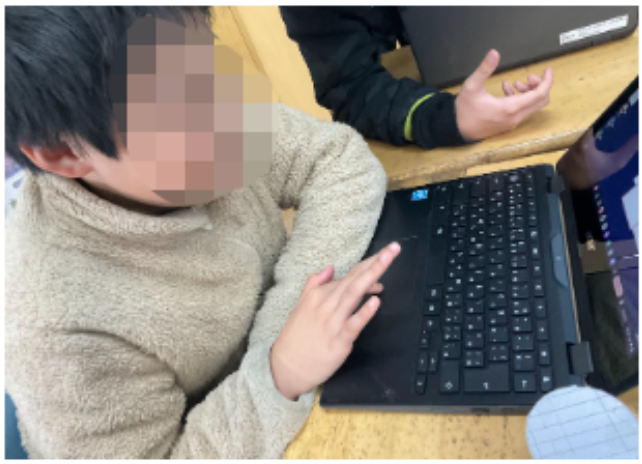
自力で進める児童もいれば、一歩踏み出すのに時間がかかる児童もいます。

今回の授業では、クラスの中で気になる児童とともに情報収集を行い、楽しみながら調べる教師の姿がありました。

一緒に画面を見て、　一緒に驚き、　一緒に発見する。

「教える」のではなく、「共に学ぶ」姿でした。

↓ この表情です!



その関わりがあったからこそ、その児童は学びの輪の中に入り続けることができていました。

主体性を支えるのは、見守るだけではなく、必要なときにそっと隣に座る大人（教員）や仲間の存在です。

今回の授業では、情報収集をひとりで取り組む児童が多いなぁと思って、何人かに「なんでひとりでやってるの？前までは、友だちとやることが多かったんじゃない?」と投げかけてみました。

ある児童は、

「いまは、一人でやる方が集中できるから、また整理分析のときには、いっしょにやろうと思ってます。」

と、活動の場面によって、活動形態を使い分けする判断ができるようになっていること。

またある児童は、

「前は聞きながらやっていたけど、いまは自分一人でもできそうだし、わからなくなったら、すぐ聞けるから大丈夫!」とのことでした。

ひとりで取り組める力がついたとともに、クラスではゆるやかにつながる安心感をもっていることが伝わってきました。

現に、自然と自分の考えや思考の過程を交流する姿がたくさん見られました。

今回のまとめとして、

① 説明・表現の質がレベルアップしていたこと　② ルーブリックと相互評価の活用　③ 授業スタイルのバージョンアップ　④ 主体的な学びを支える教師の役割

この4つが重なり合って学びが深まり、広がっているなぁと感じました。

良い学びをありがとうございました！